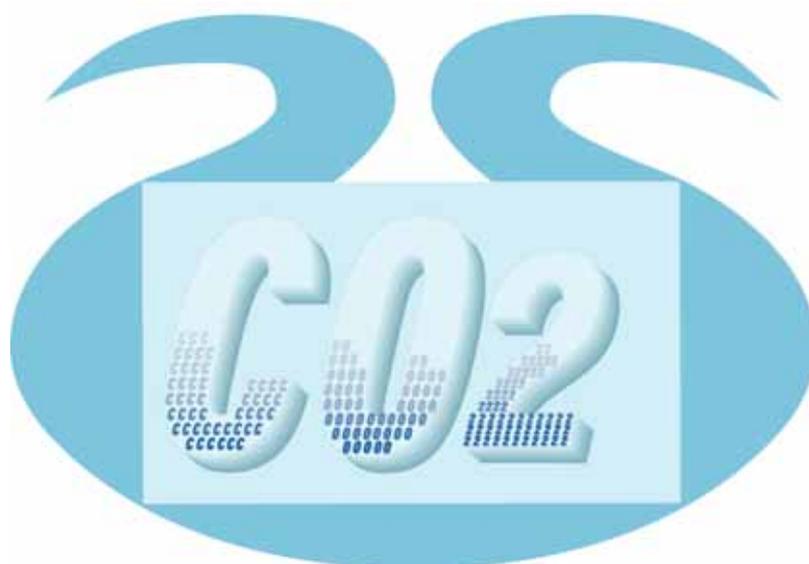


枚方市地域新エネルギービジョン

～自然に学び、資源を生かし、新エネルギーで自立をめざす

ゆとりのあるまち枚方をめざして～



第2章

第2章 新エネルギービジョンの方向性

持続可能な地域づくりとは、地域に存在する資源や人材の潜在的可能性を技術や教育によって顕在化させ、地域を豊かにすることであり、そのための政策は、産業政策、地域政策、交通政策、福祉政策等と深い関連性がある。また、あらゆる活動にエネルギー利用は大きく関わっており、エネルギー政策の領域と対象もまた、大きく広げなければならない。

地域新エネルギービジョン策定に当たって、平成14年度に実施した基礎調査の結果から見てきたものは、枚方市の現状と可能性である。

枚方市は豊かな気候風土を有しているが、その自然条件を概観すると、太陽エネルギー以外の自然エネルギーに恵まれているとは言い難い。河川温度差などの未利用エネルギーは大きな導入可能量が算出されているが、実際の導入にあたっては、現在のところ、水利権等の問題がある。

また、廃棄物の処理や里山の保全という地域の大きな環境課題が存在するので、これらの課題への取り組みと絡めながら、廃棄物エネルギーや木質バイオマスエネルギーの有効利用を検討する必要がある。

40万人の人口を抱える都市型の自治体であり、大量の自然エネルギーの賦存が確認できる土地でもないため、必要なエネルギーの大きな割合を地域の分散型発電などから得ることは無理がある。よって、検討しなければならないシナリオは、従来の集中型発電所等によるエネルギーに加え、地域の特色ある資源を活かした分散型のエネルギーをいかに配備し、有効に利用するかということである。

また、新エネルギーの導入に先立って重要なのは、省エネルギーの取り組みである。民生・運輸部門のエネルギー需要の増加は全国的な動向であるが、枚方市ではそれがより顕著にあらわれている。この問題に関しては、草の根レベルできめ細かな対策を講じていかなければならないと考えられる。

エネルギーを最適な形で供給し利用し、環境性の高い循環型都市を形成するためには、行政・事業者・市民がそれぞれの役割分担のもと、協働しての取り組むことが必要である。

行政には、新エネルギーを公共施設へ率先して導入し、普及啓発に努めるという役割がある。また、防災関連施設への導入は、地域防災の観点から自立電源の確保という大きな意味を持つこととなる。

市域に広く新エネルギーの導入を図るためには、市民・事業者・行政が協働し、さまざまな事業を立ち上げ、運営していくことが必要であると考えられる。

そして、これらの事業推進の基礎として、持続可能な地域づくりのためには市民のエネルギーに対する意識の向上が必須であるため、エネルギー教育・学習が大きなテーマとなってくる。市民意識調査の結果によれば、枚方市民の環境意識はかなり高いことから、より効果的なエネルギー教育・学習の実施によって高い成果が期待できる。

基礎調査から見えてきた地域特性を踏まえ、昨今のエネルギーに関する技術の進歩、世情の変化などを勘案しながら、市民会議、庁内連絡会議、策定会議を通じ、エネルギー利用（新エネルギー利用、省エネルギー）に関わるビジョン（エネルギー未来像）、基本方針、重点テーマ、具体的事業・施策の体系の骨格をまとめた。

それぞれの内容についてイメージできるように、次ページ以降で枚方市の新エネルギービジョンの方向性を示している。

2.1 ビジョン～エネルギー未来像

ビジョン（エネルギー未来像）とは、エネルギー利用に関して、枚方市が目指すべき方向性、価値観をイメージできるようにした像・姿である。

エネルギー未来像をはじめ、市民会議における意見を尊重しながら、策定会議及び庁内連絡会議の検討を経て最終的に定めた。

枚方市のエネルギー面からみた未来像は以下のとおりである。

枚方市のビジョン（エネルギー未来像）

自然に学び、資源を生かし、新エネルギーで自立をめざすゆとりのあるまち枚方（3S）

3S……自然（しぜん）のS、資源（しげん）のS、新エネルギー（しん）のS

ビジョンに込められた思い

「自然に学び」には、市民が自然に向き合い、自然の合理性について学ぶ中で、自然エネルギーの仕組みを理解できるようにしていきたい。また、枚方市の次代を担う子どもたちが、身近に自然に触れ合えるまちづくりを行い、自然の中で遊びながら自然エネルギーについて学んでいけるようにしていきたいという思いが込められている。

「資源を生かし」には、省エネルギーや省資源を進めながら、市民のエネルギーによって、枚方市の資源をエネルギーに変えていけるようなまちにしていきたい、という思いが込められている。

「新エネルギーで自立をめざす」には、化石燃料への依存度を減らして、将来的には新エネルギーで市民のエネルギーを賄えるようなまちにしていきたい、という思いが込められている。

「ゆとりのあるまち」には、車などに頼り過ぎず、淀川の流れのようにゆっくりとした生活ペースで、しかも、新エネルギーを使って発展していけるまちでありたい、という思いが込められている。

2.2 基本方針

新エネルギーの導入に取り組む基本的な考え方を基本方針として以下のようにまとめた。

基本方針

新エネルギーを身近に体験できるまちづくりを進めていく
省エネルギー・新エネルギーで枚方市をアピールしていく
自然エネルギー*を利用したゆとりある生活を楽しむ
市民・事業者・行政のパートナーシップで取り組む

基本方針

新エネルギーを身近に体験できるまちづくりを進めていく
市内のさまざまな場所に新エネルギーを導入していき、市民が新エネルギーを見たり
さわったりできる機会が増えるようなまちづくりを進めていきます。

基本方針

省エネルギー・新エネルギーで枚方市をアピールしていく
省エネルギーや新エネルギーの利用を市民の取り組みによって進めていき、その取
組みが枚方市らしさとなるように市内外にアピールしていきます。

基本方針

自然エネルギーを利用したゆとりある生活を楽しむ
太陽、風、水、木などの自然の恵みを自然エネルギーとして利用し、豊かな自然とと
もにゆとりある生活を楽しみます。

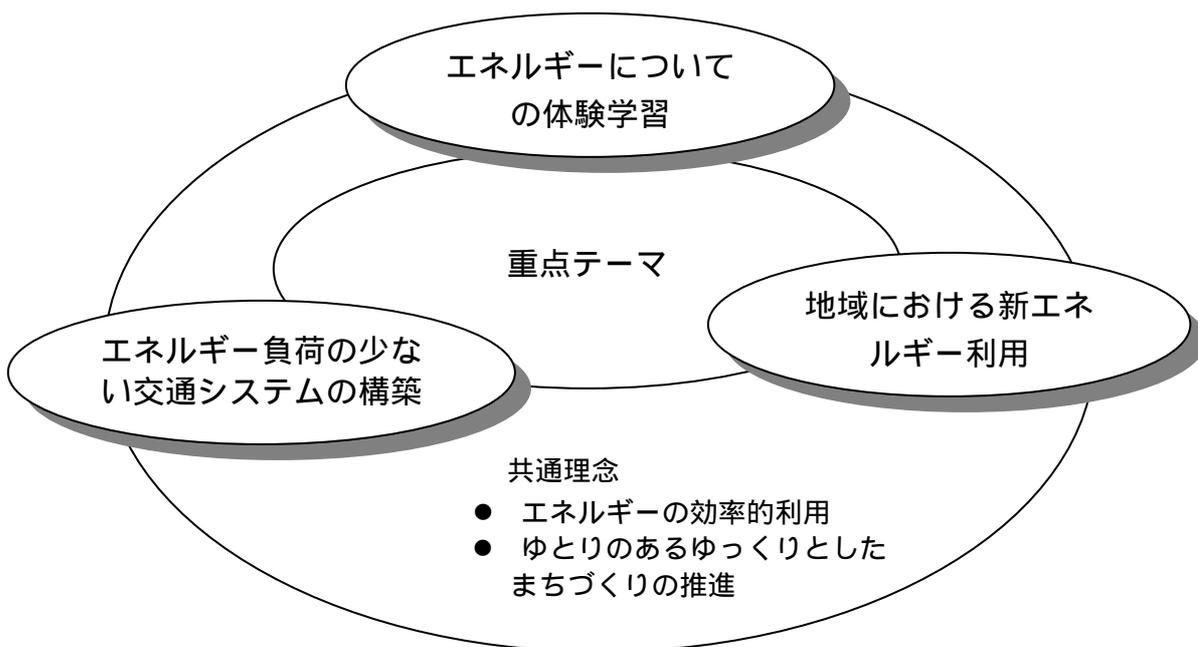
基本方針

市民・事業者・行政のパートナーシップで取り組む
市民、事業者、行政など、枚方市で活動しているあらゆる人々がパートナーシップで
新エネルギーの利用に創意工夫して取り組んでいきます。

2.3 重点テーマ

エネルギー問題の解決、環境まちづくりにつき、重点的に取り組むテーマとして次の3つを設定した。

また、3つの重点テーマすべてに共通して波及する理念として、エネルギーの効率的利用、ゆとりのあるゆっくりとしたまちづくりの推進を置くこととした。



2.4 具体的事業・施策

重点テーマを実現させる具体的事業・施策について、市民会議、庁内連絡会議、策定会議等の議論・意見をもとにまとめると以下のとおりである。その具体的な内容については、3章で述べることとする。

重点テーマを実現させる具体的事業・施策案

重点テーマ	事業名	推進主体
エネルギーについての体験学習	子どもエネルギースクールの開校から地域へ	協働
エネルギー負荷の少ない交通システムの構築	エコトラフィックプロジェクト (カーシェアリング、自転車利用)	協働
地域における新エネルギー利用	新エネルギースポット バイオマス利用 市庁舎等公共施設の省エネルギー事業 水道局受水場・配水場太陽光発電設備設置事業 南部市民センター太陽光発電設備事業 市内小学校への太陽光発電設備導入事業 (仮称)第二清掃工場におけるエネルギーの有効活用 市による導入支援事業の検討	協働 協働 市 市 市 市 市